

丹波・但馬

「獣害から守った里山の恵み」を商品化

獣害対策で収穫された「放任柿」を使ったジャムを丹波篠山市福住の県立篠山東雲高校の生徒らが商品化し、12月、市ふるさと納税の返礼品として採用された。さっぱりした甘みと鮮やかなオレンジの色味が特徴。生徒らは「食べて丹波篠山を応援してほしい」とアピールしている。

放任柿とは、収穫されないまま放置された柿のこと。ニホンザルの餌となり、サルが人里に出没する誘因となっているという。市内には約200匹のニホンザルが生息し、農作物を荒らし人家の屋根を走るなどの被害がでている。

ジャムに使うのはサル被害に悩む畑

丹波篠山市ふるさと納税返礼品に採用された柿ジャムと黒豆、栗のジャム。同市の篠山東雲高校で



「放任柿」ジャム返礼品に

丹波篠山市ふるさと納税

地区で10月に収穫した柿。市民や都市住民が参加した獣害対策イベントに高校生も加わり、計800kgを収穫し、そのうち約100kgをジャム用として保管している。受注ごとにジャムに加工して発送する。

2020年から代々の生徒有志がジャム開発に関わり、今年、食品加工を学ぶ2年生11人が完成させた。柿本来の味を際立たせるために、水分を適度にとばすよう工夫を重ねたという。パンに塗るだけでなく、バニラアイスにかけたりケーキのクリームに混ぜたり多様

篠山東雲高生

な楽しみ方ができる。

ふるさと納税では、「獣害から守った里山の恵みをたっぷり味わってもらおう」と、対策をした畑で収穫した黒豆と栗のジャムをセットにした。限定50セットで、1万円の寄付で返礼品として受け取れる。柿ジャム開発に参加した栗野謙心さんは「これまではサルに食べられてしまった物が商品となっている人に渡るのがうれしい。柿のおいしさを知ってもらえたら」と話していた。市ふるさと納税の問い合わせは市ブランド戦略課(079・552・0275)。

2023年12月23日

毎日新聞